

日本原子力学会核燃料部会

平成15年第2回運営委員会議事録

日時:平成15年3月28日(金) 11:00~12:30

場所:アルカスSASEBO 楽屋202

出席者(順不同、敬称略):

山脇部会長、大井副部会長、森山委員、佐藤委員、杉崎委員、安部田委員、伊東委員、

緒方委員、木下委員、小林委員、河野委員、林委員、和田委員、松本委員

[代理出席] 大槻氏(後藤委員代理)、永瀬氏(上塚委員代理)、三島氏(米田委員代理)、

岡田氏(久保田委員代理)、米山氏(坂井委員代理)

議事:

1. 前回議事録の確認

松本委員より、平成15年第1回運営委員会議事録(案)[資料1]についてEメール配布後の追加修正点の説明が行われ、コメント無く了承された。

2. 総会配布資料の確認

松本委員より、第20回会員総会資料(案)[資料1]について説明後、審議が行われ、下記の通り決定した。

1)活動報告と今後の活動計画について

コメント無く了承された。

2)副部会長、委員、幹事の交代及び任期について

副部会長の交代として、本日のH15年第20回総会承認取得後後より(日本原子力産業会議)大井昇氏から(NFI)森一麻氏に交代を総会に提案する。

今後の運営委員の任期変更について、部会長、副部会長等の重要人事の交代は総会の承認事項と

なっているため、今後は全運営委員の任期を年から年度に変更し、統一化を行うことを総会に提案する。

3)核燃料部会の平成14年度収支及び平成15年度予算について

総会資料は平成15年度部会予算は従来通り年2回部会報発行(発送費込みで492千円)の支出内容となっていたが、部会の学会配布金が277千円(平成14年度395千円)に削減され、セミナー残金も平成14年度実績並(平成14年度予算320千円、実績70千円)しか見込めず、不足金205千円を平成14年度末越金で補填すると、平成15年度末越金予想は46千円になり、早急に対策を取る必要がある。また、この中には春の年会での支出は不明のため含んでおらず、その分が更にマイナスされる。

一方、核燃料、材料、核融合工学部会合同の燃料・材料に関する日韓中シンポジウム/セミナーは好評で今後継続して行く必要があり、昨日の費用は他部会の配慮により、当部会は2万円位の負担で良いことになったが、今後は応分の負担が必要となる。

そこで、支出の大半である年2回部会報発行を、平成15年度から年1回とすることを総会に提案する。

その発行月は、委員の任期を年から年度に変更を検討した時に6月発行の部会報担当の引継ぎが一番問題であったため、1年の活動報告として12月発行とする。

総会資料は修正版の準備が間に合わないので、口頭で修正点を含め説明し承認を取得する。

3. 核燃料部会部会報(平成15年6月発行分)執筆者の推薦について

米山氏より、6月発行部会報の執筆者の推薦について[資料3]説明があった。しかし、部会報が12月発行の年1回することが本日決定したため、基本的には本日提案内容とし、1年の活動報告とし

ての見直しを今後行い、7月運営委員会で執筆者の最終案をほぼ確定する。このため、追加等の意見はEメールで坂井委員/米山氏へ連絡をすることになった。

4. 平成15年夏期セミナー企画立案状況について

永瀬氏より、2003年7月10日(木)～12日(土)妙高パインバレー ロイヤルパインズホテルで開催される夏季セミナーの企画立案状況について[資料4]報告があった。

検討の結果、本日の下記意見を反映させてプログラムを再検討し、Eメール会議で運営委員に連絡して、色々な意見を汲み上げ、最終決定することになった。

- ・燃料に関する原子力学会賞受賞記念講演は、基本的には落とすことなく全て実施しており、原研の事故の話は外しても良いが、サイクル機構の話は入れた方が良い。1件当りの時間は短縮。
- ・大学の基礎的研究(例:腐食、物性、熱拡散率、他)も入れないと大学関係が益々来なくなる。))
- ・核燃料部会主催であれば、将来の夢、現在のシステムに対する技術者を養成すると言うより将来に向けてインスパイヤーする要素が必要。
- ・大学生、大学院生の参加が少なくなり、企業の若手の人が参加してもらわないとこの会は成立しないので、同じ7月に実施されている原安協主催の諏訪セミナー(昨年から湘南国際村で実施され、基礎的な話が主)との違い(現状の課題、将来に向けた新しい動き・問題点、原子力のあるべき姿の講演・パネル等)を明確化する必要あり。

- ・パネルは複数の機関が組みになって、色々な意見・見方を対比して実施した方が良い。
- ・今後基準のあるべき姿を学会として提言して行くことが大切で、醸成する場に出来ると良い。

例えば、安全基準に対する物性データは見直すべき時期に来ているが、今は新しい技術レベルにおけるデータ出ても採用されず、保守的な値が何時までも残ってしまう。

5. 学会誌への連載講座について

小林委員より、森次期副部長が取り纏めた学会誌への連載講座投稿[資料5]について、学会誌編集委員会要望は専門で無い人向け(大学2～3年生)に分かり易く説明とのことであり、本日は目次案、全体を調整するコアグループメンバー3～4人、執筆者の推薦・依頼ルートについて審議したいとの報告があった。

検討の結果、本日の下記意見を反映させて案を再検討し、Eメール会議で運営委員に連絡して、最終決定することになった。

- ・炉物理は連載が終わっているので、ある程度分かっている前提とする。
- ・基礎としての物性、熱力学がある程度分かっている前提とするか。
- ・例えば燃料材料なら、原子炉の中の燃料はこの様なものがあって、軽水炉はこの様な位置付けなのだという書き方をしないと今までのテキストと同じになる。他の項目についても同じことがいえる。
- ・大学3年生頃核燃料を先生に教わったことで一番覚えていることは、 UO_2 とジルカロイのことで、結晶構造がこうなっている、ゆえに照射するとこの辺に照射挙動がたまってしまうとか、酸化するとここに酸素が入ってこうなるとかである。 UO_2 とジルカロイの奇跡のコンビネーションで軽水炉が成り立っており、 UO_2 とは、ジルカロイ合金とは、が一回づつあっても良いのでは。
- ・従来の学会テキストや原安協テキストの改訂版でなくて、なぜ UO_2 なのか、なぜジルカロイなのか謎解きしてくれるものは面白く、何か新基軸を出し、且つ若い人達が興味を持ってくれる突破口を作るような物にしたい。

6. 部会活動の国際化・原子力学会秋の大会における企画セッションについて

6.1 軽水炉燃料専門家会議開催について(TOPFUELでの準備会報告)

木下委員より、2003年3月17日TOPFUELでの準備会[資料6.1]について報告があった。

(1)2004年9月ANS軽水炉燃料専門家会議

当部会への要請事項である委員を米国、欧州、アジアより選出(General Co-chair, Technical Co-chair各地区各1名、Technical Committee各地区各6名)は、Eメール会議で選出する事になった。

(2) 日本での2005年開催について

2005年10月上旬で東京以外の出来れば京都希望との提案があった。

部会長より2005年開催の組織委員長に日本原電の出沢氏(元東電)にお願いすることが決まり、産業界のバックアップの下にオールジャパンで本件に対応することになったとの紹介があった。

(3) その他

米国、欧州、アジアの3つの会議で各々個性を作ることが重要な課題として提起され、アジア圏では基礎研究に加え計算コードやモデリングに特徴を出せるのではないかとの意見があった。

6.2 原子力学会秋の大会における企画セッションについて
和田委員より、原子力学会秋の大会における企画セッションについて[資料6.2]報告があった。

検討の結果、7月の運営委員会で決定する事になった。

謝礼について確認があり、部会員以外の場合は(学会規定により)出しているとのこと。

7. 核燃料部会ホームページについて

河野委員より、ホームページの更新役割分担確認と作成状況について[資料5]報告があった。

新規部会員の人のメーリングアドレス登録は従来通りのやり方とし、チェック頻度を半年に1回から毎月1回程度に増やして、密に登録して行くことでカバーして行くとの報告があった。

今後、部会報をホームページに掲載する場合は、担当が取り纏め河野委員へ依頼すれば対応して頂けることになった。

現在東大で管理している核燃料部会運営委員メーリングリストについて、河野委員の方で管理出来ないか確認があったが、組織ルール上出来ず個別に相談することになった。

8. その他

8.1 技術マップと活動実績表について

部会の活動について、他部会と比較される評価される時代になったので、合同セッション等についても活動成果として報告出来るように、庶務幹事の方で良く把握するように部会長から指示があった。

また、部会の技術マップに燃料の長期貯蔵についての項目が無く、追加し、出来れば核燃料部会の主専門分野に入れた方が良いとの意見があった。

9. 今後の予定

松本委員より以下の予定が報告され確認された。

- ・第3回運営委員会 :平成15年7月10日～12日 夏期セミナー時(新潟県)
- ・第4回運営委員会と会員総会:平成15年9月24日～26日 秋の大会時(静岡大学)

以上

[別紙]

核燃料部会 平成15年度提出予算および平成14年度予算・実績

部会報年1回12月発行の改訂版(但し、①H14,H15共同セッション出費は見込んでない

②印刷費はページ数多少増加を見込み、半減でなく195千円とした) (単位:円)

	科 目	H15年度予算		H14年度予算・実績		
		提出予算	備 考	年度末実績 予想(*は 確定)	予 算	備 考
収入	配付金収入	* 277,000	学会連絡	* 395,000	* 395,000	8月末時点での各部会会員数に応じて比例配分
	会費			—	—	

寄付金・賛助金収入			—	—	
セミナーテキスト売上			* 1,800	—	
セミナー残金	70,000	H14年度実績並	* 70,177	320,000	
合 計	347,000		466,977	715,000	予実差 - 248,023

科 目	H15年度予算		H14年度予算・実績		
	提出予算	備 考	年度末実績 予想(*は 確定)	予 算	備 考
会議費			—	—	
通信費、発送費	91,000	部会報年1回発行 費用半減	* 182,038	200,000	会報(No.37,38) 発送費
会報印刷費	195,000	部会報年1回発行 多少厚くなる分見 込み	* 310,800	280,000	会報(No.37,38) 印刷費
ニュース印刷費			—	—	
雑印刷費			—	—	
セミナー補助金			—	—	
会員事務管理費	* 60,000	学会より連絡値	* 60,000	* 60,000	オフコンリース料(@5,000 ×12ヶ月)
講師謝金、旅費			0	150,000	講師懇親会参加費を想定
記念品作成費等			0	—	
その他			—	—	
予備費			—	100,000	企画セッション資料印刷費 を想定
合 計	346,000		552,838	790,000	予実差 - 237,162
収支差額	1,000		-85,861	-75,000	予実差 - 10,861

年度末繰越金	(252,298 - H14, H15 共同セッション出費)	251,298 - H14 共同 セッション出 費)	337,159	予実差 - 80,861
--------	--------------------------------	-------------------------------------	---------	--------------

1. 平成15年度外人講師招聘費用として学会国際協力推進費20万円申請予定

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)